

かわごえ生き物調査 指標種



発行:川越市環境部環境政策課
作成:かわごえ環境ネット自然環境部会

R04. 4～

川越市

指標種一覽

	植物	鳥類	昆虫	クモ
1	アレチウリ	ガビチョウ	モンシロチョウ	ジョロウグモ
2	オオフサモ	カルガモ	ツマグロヒョウモン	
3	オオブタクサ	カワセミ	ジャコウアゲハ	
4	オギ	キジバト	アカボシゴマダラ	
5	カタバミ	コゲラ	ヤマトシジミ	
6	カントウタンポポ	コサギ	ナミアゲハ	
7	クチナシグサ	シジュウカラ	クロアゲハ	
8	ジンバリ	スズメ	シオカラトンボ	
9	シュンラン	ツグミ	ギンヤンマ	
10	ススキ	ツバメ	アキアカネ	
11	セイバンモロコシ	ヒバリ	カブトムシ	
12	セイヨウタンポポ	ヒヨドリ	ナナホシテントウ	
13	セリ	モズ	ショウリョウバッタ	
14	タチツボスミレ		オオカマキリ	
15	チガヤ		イナゴ	
16	ネジバナ		ヒグラシ	
17	ハルジオン		ミンミンゼミ	
18	ヘクソカズラ		ニホンミツバチ	
19	ホトケノザ			
20	ミズヒキ			
21	ミゾカクシ			
22	アカマツ			
23	イチョウ			
24	コナラ			
	24	13	18	1

爬虫類	両生類	哺乳類	その他
ニホンカナヘビ	トウキョウダルマガエル	ホンドキツネ	マルタニシ
ミシシッピアカミミガメ	ニホンアカガエル	ホンドタヌキ	ドジョウ
ニホンヤモリ		アブラコウモリ	
アオダイショウ			
4	2	3	2

計 67種

植物 24種

1 アレチウリ
(緊急対策外来種)※1



北アメリカ原産の大型ツル植物。巻きひげで数メートルも伸びて荒地、河畔などに繁茂し覆いつくす。(ウリ科)

2 オオフサモ
(緊急対策外来種)



南アメリカ原産。多年生の抽水植物で匍匐茎を伸ばして増える。河川、湖沼などで爆発的に増殖している。(アリノトウグサ科)

3 オオブタクサ
(重点対策外来種)



荒地や河川敷に大群落をつくり、3mにもなる。葉は掌状に分裂し、クワに似る。雄花の穂が長く伸びる。(キク科)

4 オギ



河川敷などの湿地に群落をつくる。ススキとの違いは株にならない、葉の中央脈があるなどである。(イネ科)

5 カタバミ



庭や道端に普通に見られ、茎は地面を這って広がり、葉はハート形で花は黄色。近年は茎が立ち上がるオッタチカタバミが増加している。(カタバミ科)

6 カントウタンポポ



関東周辺で見られる在来種と同じように総苞片が反り返らない。セイヨウタンポポに生息地を奪われつつある。(キク科)

7 クチナグサ
(準絶滅危惧種)



落葉樹林の林床に生息する半寄生植物。茎は地上を這い小さな白い花をつける。和名の由来は果実がクチナシの実に似ることから。(ゴマノハグサ科)

8 ジシバリ



日当たりのよい場所に生える多年草。細長い茎が地面を這い根を下ろして増える。葉は長い柄をもち卵形。イワニガナとも呼ばれる(キク科)

9 シュンラン
(準絶滅危惧種)



日本全土に広く分布する野生ラン。里山、雑木林に自生し、葉は細く硬い。春に淡い黄緑色の花を咲かせる。垂れ下がる唇弁には赤紫色の模様がある。(ラン科)

10 ススキ



乾燥気味の野原に株状に生える。秋の七草の一つで尾花ともいわれる。小穂に長いノギがあることが、オギとの違いである。(イネ科)

11 セイバンモロコシ
(その他の総合対策外来種)



地中海原産の外来種。茎は太く大株になる。葉は無毛でへりはざらつけない。土手などではススキが本種に置き換わっている。(イネ科)

12 セイヨウタンポポ
(重点対策外来種)



ヨーロッパ原産の外来種。花期が長く単為生殖で種子を飛ばし繁殖力が強く都市部では在来タンポポを凌駕している。総苞片が反り返るので在来と区別できる。(キク科)

13 セリ



湿地、めせ道などに生育する。古くから食用にされていて、春の七草の一つである。似た種にクレソンがあるが、セリよりもクレソンの葉の方が丸みを帯びている。(セリ科)

14 タチツボスミレ



全国的に分布するスミレでハート形の葉と立ち上がる茎、くしの歯状の托葉が特徴。道端、草原、林など様々な環境に見られる。(スミレ科)

15 チガヤ



日当たりのよい空き地などに群生する。白い穂は綿状にフワフワしている。(イネ科)

16 ネジバナ



芝生の中によく見られる。夏にピンクの小花がねじるように咲く。モジズリともよばれる。(ラン科)

17 ハルジオン



北アメリカ原産。畑や道端などに群落をなす。蕾が垂れ下がる、葉が茎を抱く、茎に空洞があるなどの特徴がある。(キク科)

18 ヘクソカズラ



蔓性の多年草で至る所に生える。葉や茎に悪臭があるのでこの名がある。夏に中心が紅色の筒状の花をつける。(アカネ科)

※1 総合対策外来種・・・国内に定着が確認され、総合的な対策が必要な外来種。
緊急対策外来種、重点対策外来種、その他の総合対策外来種の3種類に分けられます。

19 ホトケノザ



早春の人里に咲く越年草。田畑を一面赤紫に埋め尽くすこともある。葉が仏の座に似ていることから名。（シソ科）

20 ミズヒキ



林の中など少し暗い所に生育。小さな花は上から見ると赤く、下から見ると白いのので水引という名がついた。（タデ科）

21 ミゾカクシ



水田地帯に広く分布し溝を隠すほど繁茂するのでミゾカクシとも呼ばれる。花の形が独特。（キキョウ科）

22 アカマツ



常緑針葉樹で樹皮が赤っぽい茶色。山地の日当たりのよい場所を好む。近年は松くい虫による被害が問題となっている。（マツ科）

23 イチョウ
(絶滅危惧ⅠB類)

中国原産の樹木で生きた化石と言われる。繁殖力が強く人為的に広く植栽されている。（イチョウ科）

24 コナラ



落葉広葉樹で武蔵野の雑木林を構成する中心的な樹種。（ブナ科）

鳥類 13種

1 ガビチョウ
(重点対策外来種)

愛玩用、観賞用として輸入されたものが野生化したと考えられている。様々な鳥の声を真似して大きな声でさえずる。

2 カルガモ



河川や沼、時に水田などで一年中見られる。嘴は黒いが先端だけ黄色いのが特徴。大きな声で「グエツ、グエツ」と鳴く。

3 カワセミ



河川や池で一年中見られる。背は青く、腹は橙色で、「チーッ」などと鳴きながら水面上を直線的に飛ぶ。

4 キジバト



住宅地から公園、平地林で一年中見られる。「デデーポッポッ、デデーポッポッ」と鳴き、首の横側と背中中の縞模様の特徴あり。

5 コゲラ



平地林や公園で一年中見られる。背は黒褐色に白い横縞がある。木の幹をくちばしで叩いて「コロコロ」という音を出す。「ギー」や「キッキキ」と鳴く。

6 コサギ



河川や水田、沼、湿地などで一年中見られる。ダイサギ、チュウサギよりも小さく、全身が白い。くちばしは黒く、足の指は黄色い。

7 シジュウカラ



市街地や平地林、屋敷林、公園などで一年中見られる。「ツービー、ツービー」、「ジュクジュク」などと鳴き、喉から胸に黒いネクタイ状の模様がある。

8 スズメ



人里に住み人に最も近い野鳥。「舌切り雀」など昔話にもよく登場する。

9 ツグミ



農耕地や河原、公園などで冬に見られる。「クックッ」、「ツイ」などと鳴き、地上をとんとんと跳ねるように歩き、立ち止まっては胸をはる。背は茶色。

10 ツバメ



水田や住宅地で夏に見られる。腹は白く、背は黒く、よく建造物に巣を作る。尾羽の両側が長い。

11 ヒバリ



水田や畑地、河原で一年中見られる。オスは早春から初夏にかけて「ピーチュル、ピーチュル」などとさえずりながら、空高く上昇する。オスの頭には冠羽がある。

12 ヒヨドリ



全体が灰色に見え、「ヒーヨヒーヨ」と鳴く。花の蜜や果実など甘いものが好物。留鳥として年中見られる。

13 モズ



畑地や河原で見られる。「キー、キー、チキチキチキ」と目立つ枝や電線で高鳴きする。全体が茶色っぽく、長い尾羽をよく振る。

昆虫 18種

1 モンシロチョウ



春から秋遅くまで見られる小型から中型の白いチョウ。幼虫の食草はキャベツ、白菜などのアブラナ科の野菜で、畑に普通に見られる。翅(※2)の中央に黒い点が2つある。

2 ツマグロヒョウモン



中型のチョウで6月頃から見られる。メスは翅の隅が黒いので見分けることができる。温暖化の影響と園芸スミレの増加によって分布が拡大していると考えられている。

3 ジャコウアゲハ



川越では入間川や小畔川沿いでよく見ることができる。幼虫の食草はウマノスズクサ。後ろの翅に赤い模様があり、暗い場所をゆっくりと飛ぶ。

4 アカボシゴマダラ



後ろの翅の外縁の赤い斑点が特徴のチョウ。幼虫はエノキを食草として、成虫は木の樹液や秋に熟した柿の実にもやってくる。

5 ヤマトシジミ



小型で普通に見られるチョウ。幼虫の食草が道端のカタハミなので小さな草地でも見ることができる。4月から11月まで長い期間見つけることができる。

6 ナミアゲハ



翅に黒いスジが入った大型のチョウで、川越でよく見ることができる。幼虫はカラタチなどのミカン科の植物を好む。住宅地でも多く見かけられる。

7 クロアゲハ



全体に黒い大型のチョウ。幼虫はサンショウなどのミカン科の植物を食草としている。やや暗い環境を好む。

8 シオカラトンボ



平地の開けた場所を好むトンボで街中でも良く見かける。雄と雌の色が異なり、オスは成長すると白粉をおびる中型のトンボ。

9 ギンヤンマ



日本全国に分布し、池や田などに生息する大型のトンボ。黄緑色の体に褐色の腹が特徴。

10 アキアカネ



水田などを利用して繁殖するトンボ。川越では6月と10月に見らる。6月は山に向かい、産卵のために10月に戻ってくる。ナツアカネとは胸の模様で判別する。

11 カブトムシ



オスは大きな角がある夏の昆虫の代表。幼虫は枯れ葉のたい肥や朽木などを食べて育ち、7月頃に羽化する。林では夜や早朝に樹液に集まる。

12 ナナホシテントウ



翅は赤色で7個の黒点がある中型のテントウムシ。畑地や住宅地でも普通に見られ、早春から活動しアブラムシを食べる。

13 ショウリョウバッタ



開けた草原に生息するバッタ。驚くと「キチキチ」と鳴いて飛ぶ。後脚が長い。

14 オオカマキリ



ハチやバッタなど生きた昆虫を食べる大型のカマキリ。後脚の半分以上が濃い紫褐色斑となり、林縁やそのそばの草地に生息している。

※2 翅(はね)…昆虫の羽のこと。

15 イナゴ



水田や野原に生息。秋、稲の収穫期に目立つ。イネ科の葉を食べるイナゴ科に属するバツタ類の総称。10種類以上を含む。

16 ヒグラシ



6月から現れはじめるセミで薄暗い時に「カナカナ」と鳴き、ヒノキやスギと広葉樹が育つ自然が豊かな環境に生息する。

17 ミンミンゼミ



夏に姿を現すセミで、鳴き声は「ミンミン」で分かりやすい。ケヤキが多い屋敷林や公園などで特に多く見られる。

18 ニホンミツバチ



体長は1cm程度で全体に黒色がかって、縞模様がはっきりしている。木の洞などを利用して巣を作る社会性の昆虫。近年、農薬が原因でハチが減少しているという説がある。

1 ジョロウグモ



夏から秋にかけて大きい網をつくる。下腹部に赤いしま模様があるので分かりやすい。メスは2cmとなるがオスは半分以下。

クモ 1種

爬虫類 4種

1 ニホンカナヘビ



体長は20cm前後。2/3が尾の長さ、色は茶色でざらつき艶がない。主に動物食で昼に活動することが多い。よく似たニホントカゲは鱗がすべて艶がある。

2 ミシシッピアカミミガメ
(緊急対策外来種)



甲羅長は約30cmくらいまで大きくなる。食性は植物食の強い雑食性。インガメ、クサガメとの違いは目の後ろに赤い模様があること。

3 ニホンヤモリ
(準絶滅危惧種)



体長は10～14cm、灰色から灰褐色、模様がある。細かいウロコに覆われ足先が特有の形をもち、垂直のガラス面でも移動できる。食性は動物食、夜行性。

4 アオダイショウ
(準絶滅危惧種)



全長100～200cm、太さ5cm、体色はくすんだ暗い緑から黒褐色と個体差がある。林などに住み木登りもできる。肉食で、小鳥、蛙、ネズミなどを捕らえる。

両生類 2種

1 トウキョウダルマガエル
(準絶滅危惧種)



体長は4～8cm、皮膚の表面は隆起が少なく、なめらかで円様の模様が目立つ。4月から7月にかけて産卵する。

2 ニホンアカガエル



体長は3～7.5cm、色は赤褐色。普段は草地、林など地上で暮らす。

哺乳類 3種

1 ホンドキツネ



体長50～75cm、尾は30～40cmと長く、ふさふさの毛に覆われる。肉食性が強いが一部雑食性がある。中型犬と見間違えやすい。

2 ホンドタヌキ



体長50～60cm、足や尾は短い。雑食、夜行性、臆病な動物。アライグマと誤認しやすいが、タヌキは足に肉球(イヌ科の特徴)を持つ。

3 アブラコウモリ

No image

頭胴長は4～6cm、前腕長3～3.5cm。灰褐色から黒褐色、カ、ユスリカなどを捕食する。4～10月は活動期で田畑などの上空を日没後飛び回る。11月より冬眠に入る。イエコウモリともいう。

1 マルタニシ



殻高4.5～6cm。丸みを帯びた殻が特徴。水田や用水路に生息。

2 ドジョウ



体長は10～15cm、ヒゲは5対。体表面はぬめりがある。雑食性。水田、湿地、小河川に生息。

その他 2種

【備考】

- 掲載内容は平成29年7月現在の情報です。
- 本冊子は、川越市で実際に生き物を調査した結果や経験を基に作成されています。掲載されている情報が、全ての個体に該当するとは限りません。
- 絶滅の危険度は埼玉県を基準にしています。